

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解  
科目コード:130011

# 人間病態学演習 I Human Pathology Practicum I

担当教員	今井 美和										
実務経験	病院勤務経験のある教員が担当している。										
開講年次	1年次後期	単位数	1				授業形態	演習			
必修・選択	必修	時間数	30								
該当ディプロマポリシー	(1)		(2)	○	(3)	◎	(4)		(5)		(6)
Keywords	病理、病因、微生物、感染症、免疫、炎症										
学習目的・目標	目的：感染症、免疫疾患、炎症性疾患の病態を、形態観察を通じて理解する。これにより、病理所見から患者の症状を正確に捉え、看護アセスメントと早期介入判断の基盤を養う。 目標：病理学および微生物学の専門用語を用いて、各疾患の病態を説明できる。また、形態観察から患者の症状との関連を述べ、看護アセスメントに活用できる。										
授業計画・内容											
回	内容										
1	オリエンテーション 病因： 紫外線、放射線、タバコ、アルコールにより引き起こされる疾患										【講義＋形態学的観察】
2-10	微生物学各論： 細菌感染症 ウイルス感染症 プリオン病 真菌症 原虫症										【講義＋形態学的観察】
11-15	免疫疾患： アレルギー、移植免疫、自己免疫、免疫不全 炎症性疾患： 呼吸器系、消化器系など										【講義＋形態学的観察】
教科書	人間病態学(病気の成り立ち) PDFファイル 人間病態学演習 I PDFファイル ステップアップ病理学ノート 第2版(サイオ出版) ステップアップ微生物学ノート 第2版(サイオ出版)										
参考図書等	ルービン カラー基本病理学(西村書店) カラーで学べる病理学(ヌーヴェルヒロカワ) ビジュアル微生物学(ヌーヴェルヒロカワ)										
評価指標	定期試験の受験資格 ・履修登録の完了 ・授業回数の2/3以上の出席 評価基準 定期試験の結果 70% + 課題の遂行・提出状況 30% により評価 課題については授業内で総括フィードバックを実施										
関連科目	解剖生理学、代謝と栄養、人間病態学(病気の成り立ち)、人間病態学演習II、疾病障害論、薬理学、公衆衛生学										
教員から学生へのメッセージ	解剖生理学、代謝と栄養、人間病態学(病気の成り立ち)で学んだ基礎知識を身につけたうえで、授業に出席してください。 授業の予習、復習を行い、確実に知識を身につけて下さい。										